

# フレスコ Fresco



充実の青果も魅力的



嵐電・帷子ノ辻駅すぐ



あったか手作り惣菜



ズラッと並ぶ棚は壮観



鮮度に自信の魚介類

帷子ノ辻店

# フレスコ Fresco

京都市右京区太秦帷子ノ辻町30-3番地  
TEL (075) 873-1451 (代)

10:00~21:00 / 無休

営 10:00~22:00



## ライトペインティングアーティスト KYOTIAN I.D. ジミー西村

Jimmy Nishimura

'69年日大芸術学部美術学科卒業。建築、バー経営、インテリアデザイナー、商業カメラマンなど、実に多岐多才なれど、1999年以降、ライトペインティング一筋に。過去の経歴は雑誌'99年10月号に詳しい

ライトペインティングとは…

暗闇の中でシャッターを開放したままのカメラと対峙し、数種の色の発光体を持って空間に線を描く。それぞれの色の残像がカメラ内のフィルムに焼き付けられ絵になるという、氏のオリジナルアート

## 破天荒と流転の人生を リセットした独自アート

佐々木圭子のライトパネル、当地ではこのサインが愛されてきた。佐々木圭子



カメラを手にした理由は単純。4~5年前、才能を感じた若手カメラマンの為にスタジオを立ち上げたのだ。当時生業としていた建築業の性格上、写真に漠然と興味をもっていたせいもある。自身も見取り稽古で写真を覚え、カメラマンとして活躍もした。

だが突然カメラを置いた。その理由も簡単。「シャッターを1度切るだけの動作にクリエイティビティはない。写真は記録するためのもの、アートではない」という結論に至ったのだ。

美術・芸術の類に身をやつす者の永遠のテーマ「オリジナリティ」。数多くの職業を経験したが、大学生の頃と気質は変わらない。「消えていく儂い光を残すことはできないだろうか?」という想いと、以前撮影中にアシスタントの輪郭を光でなぞって遊んでいた思い出が、ふとシンクロした。フィルムというキャンバスに、闇という空間で、発光体の絵筆を滑らせる。手始めに鬼や龍、鶴といった空想の生物を描いてみた。知人は評した。「こんなこと思いつくのは世界中探してもオマエだけだ」。俄然その気になった。以来風景や人物、あらゆるものを描いたが、保守的な京都という街では一向に認知も受け入れもされない。愛するアメリカを思った。芸術文化を大切に思う国…。そういえば小学校の同級生が一人居る。意見を求めよう。コンタクトを取るのには実に40年ぶりだった。当時の任天堂アメリカ社長、そしてシアトルマリナーズのチームオーナー荒川氏である。

映画や音楽と同様、文化として確立されている欧米のスポーツは、企業主体で存在する日本とはメンタリティが全く違う。チームオーナーのステータスともなれば日本との比較すら無意味だ。

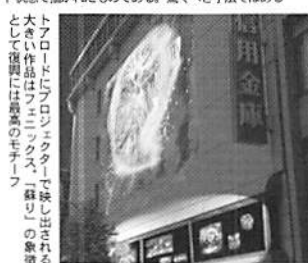
日本より遙かに文化に造詣の深い頃に住もう友は、手紙と共に送られてきた佐々木圭子をモチーフにした作品に「何か」を見たのだろう。挨拶代わりの作品は結果MRBのチームオーナーのお墨付きを得るに至った。

そして今年、アメリカは西海岸、シアトルマリナーズの本拠、セイフコフィールド2階にあるプレミアムグッズショップには、京都在住の日本人が手掛けた発光ダイオードで輝く佐々木圭子のライトパネルとプリントフレーム、そしてセイフコフィールドのポスターが並んだ。今月始めには奇しくもシアトルと姉妹都市関係にある神戸のトアロードに、神戸復興記念事業の一環として同様の手法で描かれた氏の多くの作品が現れる。今後は音楽とのコラボが望みだという。

一生懸命働いた。無茶もした。栄光を見た。挫折も経験した。2001年、人生の上辺と底辺を知った、愛すべきビッグ・マウスのオリジナルアーティストが海を越えた年になった。



セイフコフィールドが描かれたポスター。これもプリント状態で描かれたものである。驚くべき手法ではある



**Information**  
[KOBELAYティングアートストリートトアロード]  
日時: 2011年8月4日(土)~8月10日(金) 18:00~23:00  
場所: 兵庫信用金庫トアロード支店  
今年、神戸市が行う神戸復興記念事業。その中に含まれる「光のプログラム」の一環として、トアロードに面した兵庫信用金庫のウィンドウと壁面を使って、上記の期間中氏の作品が展示される。